

様式3 令和2年度 学校関係者評価書				
学校名		宇陀市立菟田野中学校		
実施日		令和3年3月2日		
大項目	中項目	達成状況・取組状況について	取組の適切さについて	改善方策について
I 教育活動に関するもの	(1) 基礎学力の定着と向上 (2) 自主的・主体的に行動できる生徒の育成 (3) 人権意識の育成 (4) 生徒指導 (5) 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・長い休校が心配されたが、生徒は明るく元気一杯で安心した。 ・学習に一生懸命やっている生徒の姿がある。 ・学習に楽しさがあり、それだけでなくそこから考えさせる授業の場面もあり、そこが良かった。 ・教室掲示等工夫があり、生徒の意見が多くあるのが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主学習ノート」を小中で連携してやっていることで、確実に家庭学習の習慣がついてきている。 ・授業は、生徒としっかり対話し、生徒自らがわかっていく授業を目指してほしい。 ・「つけたい力」をテーマごとに各学年で段階的な目標を決めていて、今やっていることが家から見てもわかり、じゃあ家でもと思える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の継承のままではいけない。常に実情にあった学びを追求する姿勢をもつことを大切にしてほしい。 ・小中連携による地域あがりの取組として、更に継続発展させてほしい。その中で、体育などの体力面等もテーマにとりあげてもらえればと思う。 ・ICTについては、タブレットの使い方等、まず先生が知り考える研修が大事だろう。
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営 (2) 研究研修 (3) 保健管理 (4) 保護者・地域との連携 (5) 教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で様々なことが大変だったと思う、その中で無事に多くの行事等が成功させてもらった。早く通常の元のようにのびのびと活動できるようになってほしい。 ・各部会を定例化することは大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携部会は、様々な視点のテーマがもたれていて良い。 ・小中連携を軸にして課題を解決に向かっているのは効果があると思う。また、中1ギャップも少なくスムーズに入っていけると感じる。 ・連携することで小中の先生方の研修の焦点がわかりやすくなり良い。 ・今後の生徒数を考えると、部活動のあり方は難しいところがあると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で集団活動が減り、個別対応が進むが、タブレット等の導入をどうつなげるのかが、今後の大切な課題となる。 ・小中連携は3年目、これからも続けて欲しい。
【その他学校に対する意見】				
特になし				